

意見書

## 岡山県のツキノワグマ狩猟再開の中止を求めます



～全生物のため、人のため、クマたちが棲める水源の森を再生中～

一般財団法人 日本熊森協会 本部・岡山県支部

電話 0798-22-4190 Mail : contact@kumamori.org 会長 森山まり子

クマたちが造る森は保水力豊かな水源の森で、災害にも強い森です。今のように、山をすべて人間が利用するのではなく、クマたちにも返してやりましょう。奥山の広葉樹林化を進めることで、昔のような、人とクマの棲み分け共存が可能になります。クマ問題が解決されます。

### (1) クマ狩猟を再開しても被害軽減効果はなく、無用の殺生です

岡山県のクマは人工林や奥山開発で、本来の餌場とねぐらを失っています。わずかに残された自然林も、近年、地球温暖化や大気汚染で下層植生が消失するなど、劣化の一途です。そのため、原則としてクマは山にはいません。絶滅が危惧されます。山に潜んでいるクマは貴重なクマです。元来、人間に何の被害も与えません。このようなクマをスポーツハンティングと称して狩猟しても、集落周辺での被害軽減につながりません。無用の殺生です。人道上からも生態系保全上からも問題です。

東北のように奥深く豊かな森が残っている所と同じようにクマ狩猟を考えるのは、問題です。

### (2) クマ狩猟はきわめて危険です

東北のマタギでさえ、先輩に教わって何年も経験し、やっとクマを撃てるようになるのです。それでもクマ狩猟中の猟師の事故は、後を絶ちません。今回の岡山県のクマ狩猟は規制がなさすぎて、誰でも簡単にクマを撃てると錯覚される恐れがあります。銃弾を浴びたクマが反撃に転じたり街に出たりするとケガ人も出ます。岡山県はその時、責任を負えるのでしょうか。

### (3) 目撃数・捕獲数激増の真の原因を究明してください

集落周辺でのクマの目撃数の激増は、地元にとって大きな問題です。しかし、生息地を失ったクマが、岡山県が言うように狩猟禁止を続けたことで本当に爆発増加しているのか、私たちには不可解です。現在、クマ生息数の推定法は確立されていません。クマ問題はクマ側に原因があるのではなく、イノシシ捕獲罌のヌカや、有害駆除されて多数放置されているシカの死体がクマを誘引している等、人為的な原因が予測されます。真の原因を究明して、取り除くべきです。